

電気と私。

新田青雲中等教育学校 4年 坂田 祥太

「今日何円溜まった〜?」「今日は〇〇円くらいだよ〜」私の祖父との家での会話です。私の祖父の家は小学生の頃建て替えを行い屋根上にソーラーパネルが付きました。そのため、一日の発電量に応じて得られる電気の金額を見ることが日課でした。当時は単純にお金が増える宝の山だと思っていたからです。現代に増えるオール電化の家は『環境への優しさ』と『電気の安全さ』が優位されています。しかし、便利なものには必ずそれなりのリスクとデメリットとがあると考えます。オール電化のリスクは停電時に家全体が機能しなくなります。デメリットは初期投資のコストパフォーマンスです。平均的一戸建て物件において数万、数十万では取付が不可能とされており国からの援助はあるものの投資費用が高いというところが難点です。積極的に環境問題に取り組みたいという姿勢があっても取り組むには金銭的問題が発生してしまうところは今後の課題です。更に身近なところに目を向けてみましょう。ある日、『事故にあいかけて危なかった』という友人がいました。学生にとって自転車通学が一般的です。常日頃、事故に気をつけていますが、ハイブリッド車や電気自動車になるほど音が聞き取りづらく。聴覚と視覚で安全確認をとる私たちにとってはかなり危険な状況があります。近年、従来 of 車に搭載されているエンジン特有の音が消え、モーターに近い音が増えました。雑音の多い中、人間の耳ではハイブリッド車、電気自動車の音を判別することが難しいです。しかし、電気自動車化は燃料の不使用・排気ガスの削減が行われている為、上記に述べたオール電化の普及同様、『環境への優しさ』が望めます。オール電化になることにより火災の誘発は減り、電気自動車化することにより排気ガスによる空気汚染が減ります。『環境への優しさ』は私たちの『居心地の良さ』に直結します。常に各々が向き合う重要性がそこにはあります。